

# 広島市の小・中・高等学校における平和教育の取組について

## 広島市の平和教育の目標

ヒロシマの被爆体験を原点として、生命の尊さと一人一人の人間の尊厳を理解させ、国際平和文化都市の一員として、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成する。

### 【具体目標】

- (1) 広島市が、人類として最初に原爆の惨禍を体験した事実を理解し、その事実をもとに考えたことを継承・発信するとともに、ヒロシマの使命と責務を自覚し、平和を希求する心情と意欲を養う。
- (2) 生命の尊さと人間の尊厳を理解させ、人間尊重の精神を日常生活の中に生かし、進んで平和的な国際社会に貢献するための基盤としての道徳性を養う。
- (3) 基本的人権と社会生活についての理解や認識を深め、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な資質を養う。
- (4) 望ましい集団活動を通して、連帯意識を深め、他の成員と協力して平和的な国際社会を実現していく自主的、実践的な態度を養う。
- (5) 世界平和を実現し、人類の福祉を増進するためには、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの重要性を認識させ、国際理解を深め、国際協調の精神を養う。
- (6) 発達段階に即して、各種の資料を活用し、戦争や原爆についての科学的な理解を深め、公正な判断力を培うとともに、学習した内容を適切に表現し、進んで世界平和の実現に貢献しようとする能力と態度を養う。

## 平和教育プログラム

### 継 承

### 発 信

#### ひろしま平和ノート

- 児童生徒の発達段階ごとに、「知る」「考える」「伝える」という学習をより効果的・効率的に行うための独自教材として、「ひろしま平和ノート」を作成した。
- 最新の情報を盛り込むことに加え、子どもの発達段階に応じて、より分かりやすい内容とすることなども考慮し、新たな被爆者のエピソードを素材とした学習や、核兵器をめぐる世界の現状から自分のできることを考えさせる学習、平和への思いを英語で表現する学習を盛り込む等、継承と発信をより一層推進するための見直しを行い、令和5年3月に改訂した。



#### 被爆体験を聴く会

- 広島市立幼稚園、小・中・高等学校、広島中等教育学校、広島特別支援学校において、地域の被爆体験者を講師として招聘し、被爆体験を聴く会を開催する。
- 令和4年度においては、被爆体験者等の話を聴く学習を138園・校で行った。



#### こどもピースサミット

- 広島市内の小学校6年生児童を対象に、平和についての作文を募集し、選考された20名の児童が意見発表を行い、平和記念式典で「平和への誓い」を読み上げる代表児童2名を決定する。その後、選考された児童が検討会議で「平和への誓い」を作成し、8月6日には、平和記念式典において、代表児童が「平和への誓い」を世界に発信する。
- 令和5年度においては、144校（国立・私立を含む）、10,737名から作文の応募があった。



#### 平和を考える集い

- 広島市立小・中学校において平和記念日である8月6日に焦点を当てた平和を考える集いを開催し、平和記念日の意義について指導するとともに、学校や地域の特色を生かした創意工夫のある平和学習を行う。
- 令和5年度においては、平和を考える集いを8月6日に開催した学校は、小学校132校、中学校51校、8月6日以外に開催した学校は、小学校9校、中学校13校であった。



#### ひろしま子ども平和の集い

- 参加を希望した広島市内及び市外の児童生徒が、8月6日に言葉や音楽、演劇などで平和への思いを発信し合う。
- 令和5年度においては、広島市内の中学校2校や沖縄県石垣市の平和大使、岡山県の高等学校など9団体の参加があり、学校における平和に関する活動の報告をしたり、平和へのメッセージを朗読したりした。



#### 「平和への誓い」アクションプログラム

- 広島市立幼稚園、小・中学校、広島中等教育学校、広島特別支援学校を対象に参加を募り、希望した各幼稚園、各学校が平和交流会やテレビ会議等を開催し、平和へのメッセージを発信する。
- 令和5年度においては、市内5校の小・中学校が取り組み、オーストラリアの小学生やアメリカの中学生などと交流し、被爆の実相や平和への願いについて伝え合う予定である。



#### 平和教育アーカイブス

- 各幼稚園・各学校における児童生徒の学習教材や教職員・保護者の研修用資料として活用することができるよう、平成20年度より、毎年、被爆体験者2名の証言を映像記録としてDVD化している。



#### 伝えるHIROSHIMAプロジェクト

- 広島市内の中学校を対象に参加を募り、各学校での平和学習や教育委員会が開催する研修会を通して、平和の思いを込めたメッセージを英語で作成し、平和記念式典に参列する各国駐日大使や海外の一般参列者に伝える。
- 令和5年度においては、市内の中学校32校、1,408名の応募があり、37名の中学生がメッセンジャーとして選ばれた。メッセンジャーは、事前研修を受け、8月6日には英語で平和へのメッセージを伝えた。



#### 高等学校の特色ある取組

- 広島中等教育学校では、広島を訪れる外国人観光客に対して、英語で平和公園を案内する「ガイドボランティア活動」に取り組んでいる。
- 基町高等学校の創造表現コースでは、広島平和記念資料館の「次世代と描く原爆の絵」の作成に取り組み、被爆の実相を後世に伝えている。 など



▲母の被爆体験を語る岩田美穂さん



▲ひろしま平和ノートを活用した学習